室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

椴法華の方言語彙について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 北海道言語研究会 公開日: 2012-02-01 キーワード (Ja): 方言語彙, 聞き取り調査, 椴法華, 特有語彙 キーワード (En): 作成者: 橋本, 邦彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/693

室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

椴法華の方言語彙について

その他（別言語等）のタイトル	Notes on unique words in the Todohokke dialect
著者	橋本　邦彦
雑誌名	北海道言語文化研究
巻	9
ページ	115-124
発行年	2011-03-30
URL	http://hdl.handle.net/10258/693

北海道言語文化研究　　北海道言語研究会
No. 9, 115-124, 2011.

椴法華の方言語彙について*

橋本　邦彦

Notes on Unique Words in the *Todohokke* Dialect

Kunihiko HASHIMOTO

Abstract：The *Todohokke* dialect is spoken in the eastern region of Oshima Peninsula in the Southern Hokkaido. The project team has worked on collecting its words and stories told by several native informants living in Todohokke, which belongs to Hakodate now, since the first field trip in 2000. This paper reveals some interesting linguistic facts, concentrating on about 40 words unique to the dialect in terms of their forms, meanings, contextual implications and ways of using.

キーワード：方言語彙　聞き取り調査　椴法華　特有語彙

1.　調査の目的

2000 年（平成 12 年）7 月に室蘭工業大学 CRD センタープレ共同研究「道南渡島東岸部方言の緊急調査」の助成により、同年 9 月 12 日～14 日に第 1 回聞き取り調査を椴法華村（現函館市）で実施した。その折に、椴法華村教育委員会編の小冊子『椴法華弁』（2000）と、調査協力者（インフォーマント）の玉村栄吾氏（大正 15 年生まれ、元船大工）がご自身の記憶を頼りに記した方言語彙のメモ（以降『メモ』と略記）を入手することができた。『椴法華弁』には 94 語の語彙が、各々、意味と例文を付して掲載されている。一方、『メモ』には約 76 語の語彙と意味が記されている[1]。2 つの資料に取り上げられた語彙は、地元住民の耳で椴法華に特有の語彙であると捉えられたものであるが、果たしてそれが事実であるかどうかについては、北海道方言全体にまで視野を広げて検証する必要がある。また、採録語彙の発音、意味、用法が、本当に記載通りであるのかも、方言話者に確認してもらわなければならない。

そこで、2010 年（平成 22 年）9 月 6 日～8 日に椴法華を含む渡島東岸部に特有な語彙を検証する調査を挙行した。調査者は、第 1 回の調査からチームを組んでいる塩谷亨、島田武、寺田昭夫、橋本邦彦のいずれも室蘭工業大学に勤務する 4 名である。調査協力は、やはり当初より継続的に協力していただいている玉村栄吾氏（84 歳）とその夫人の初代氏（84 歳）

[1] 『メモ』の左端の余白に「2000 年 9 月 10 日.椴法華言語～方言」と書いてあり、この時点で 72 語の語彙が挙げられていたが、その後の聞き取りで、さらに 4 語程度の語彙が追加された。

に依頼した。調査日は、9 月 7 日で、それ以外の日は語彙に関連する場所に赴き、資料作成のための映像撮影を行った。

2. 調査のための準備

現地に赴く前に『椴法華弁』と『メモ』から重複する語彙を除いた語彙表を作成し、生粋の北海道方言話者に広く北海道方言として用いられている語彙（自身も用いるか聞いてわかる語彙）を拾い上げてもらうことにした。これに洩れた語彙を現地調査の対象にするためである。この調査協力者として橋本三代子氏（50 歳、女性、看護師）を選んだ。橋本三代子氏は室蘭市本輪西町の生まれで、現在、登別市片倉町に在住しているが、両市以外で暮らした経験はない。また、普段からかなりの程度の方言を話し、その知識も豊かである。

事前調査を通じて 42 の語彙が、用いたことがないか、理解できないとの判断を受けた。その語彙を、意味を付して、以下に列挙する（『椴法華弁』所収の語を TD、『メモ』所収の語を MM で表記する）。また、用法を確認する目的で、『椴法華弁』収録の用例を付す。

(1) 1. ウダデ：「すごい」<TD>
「オメダヂ、ウダデウタウメーナ」
（君たち、すごく歌うまいね）

2. ツラツケネ：「図々しい、厚かましい」<TD, MM>
「ヒトノモノ、ダマッテツカッテ、ツラツケネーナ」
（人のもの、だまって使って、あつかましいね）

3. コンツケル：「すねる」<TD>
「イヅマデモコンツケネーデ、ヤットシゴドシレ」
（いつまでもすねていないで、早く仕事をしろ）

4. カッツグ：「追いつく」<TD>
「カッツゲルンダラ、カッツイデミレ」
（追いつけるのなら、追いついてみろ）

5. ランキ：「夢中になる」<TD>
「ナニランキタゲデンノヨ。チョベットカゲンシネーガ」
（なに夢中になってるの。すこし加減したら）

6. ウズゲル：「甘える」<TD>
「マダアノワラス、オカチャンサ、ウズゲデル」
（またあの子供、お母さんに甘えてる）

7. スガ：「氷」<TD>
「キョーシバレデッカラ、ミズタマリニスガハッテダ」
（今日寒さが厳しいから、水たまりに氷が張っていた）

8. ダゲダゲ：「ほどほどに」<TD>
「シゴドモ、ベンキョウモ、ダゲダゲニ」

（仕事も、勉強も、ほどほどに）

9. ワッタメガス：「全力を出してどんどんやる」<TD>
「ウジノオトーサン、ワラスガユーゴトキカネバ、ワッタメガシテオゴンダ」
（家のお父さんは、子供がいうことを聞かなければ、めちゃくちゃ怒るんだ）
10. アンベ：「行こう」<TD, MM>
「オメーモイッショニアンベ」
（君も一緒に行こう）
11. ススペタガル：「関係ないのに干渉してくる」<TD>
「ソッテ、ススペタゲデハナシサハイッテクンナ」
（そうやって、干渉して会話に割り込むな）
12. セッコ：「世話」<TD>
「タノミモシネーノニ、ヒトノコトセッコシネクテモイイ」
（頼みもしないのに、人のことに世話を焼かなくてもいい）
13. カッパトル：「濡らしてしまう」<TD>
「カワニオチテ、カッパトッタ」
（川に落ちて、濡らしてしまった）
14. ガヘネ：「スタミナがない」<TD>
「モーバテタノカ。ホントーニガヘネナ」
（もうばてたのか。本当にスタミナがないな）
15. ヤマゴ：「木こり、造材人夫」<TD>
16. カラッポヤミ：「怠け者」<TD>
「アレダラ、カラッポヤンデ、ナンモヤンネンダ」
（あいつは、怠けて、何もやらないんだ）
17. ダンボラウル：「油を売る」<TD>
「シゴドシネデ、ダンボラウッテダ」
（仕事をしないで、油を売ってた）
18. ネマル：「座る」<TD, MM>[2]
「ソゴサタッテネーデ、コゴサネマレ」
（そこに立っていないで、ここに座れば）
19. フトズ：「同じ、そっくり」<TD>
「コノワラス、オヤジトフトズダナ」
（この子、親父とそっくりだね）
20. ブンノゴ：「頭」<TD>
21. ムガツラ：「顔」<TD>
22. マナグ：「目」<TD>

---

[2] 『メモ』ではネマレ「座れ」という命令形で挙がっている。

23. ナヅギ :「おでこ」<TD>
24. ヨロタ :「もも」<TD>
25. アグド :「かかと」<TD, MM>
26. ゴメ :「かもめ」<TD>
27. ゲンダガ :「毛虫」<TD>
28. ガンゼ :「うに」<TD>
29. マギリ :「包丁」<TD>
30. ハギ :「ほうき」<TD>
31. マッコ :「お年玉」<TD>
32. オヤコ :「親戚」<TD>
33. ジンジョコ :「肩車」<TD>
34. キミ :「とうもろこし」<TD>[3]
35. アメユキ :「みぞれ」<TD>
36. サギリ :「波しぶき」<TD>
37. ウズゲル :「甘える」<TD>
38. ワッタクッタ :「喧嘩して滅茶苦茶やっつける」<MM>
39. アンパイ :「うそをつく」<MM>
40. アンベワルイ :「都合が悪い」<MM>
41. マールンケ :「小さい人」<MM>
42. ズナコマ :「友だち」[4]

『椴法華弁』、『メモ』と橋本三代子氏に共通した語彙でも、音と語形が異なるものも、参考に挙げておく。用例は、(1)と同様に、『椴法華弁』から引用する。

(2) 音の異なる語（TD:『椴法華弁』、MM:『メモ』、HM: 橋本三代子氏）

1. TD: ハバゲル、HM: ハバケル　「喉に食べ物などが詰まる」
   「ソンタラニ、ハッチャギニナッテクッタラ、ハバゲルド」
   （そんなに、夢中になって食べたら、喉に詰まらせるよ）
2. TD: ユルグネー、MM: ユルクナイ、HM: ユルクネー　「容易ではない」
   「コノシゴドダラ、ウダデユルグネーナ」
   （この仕事は、すごくたいへんだね）
3. TD: ヌグイ、HM: ヌクイ　「暖かい」
4. TD: ブスクログナル、HM: ブスクロクナル　「あざができる」
   「ツクエニアシブツケダッケ、ブスクログナッテマッタ」
   （机に足をぶつけたら、あざができてしまった）

---

[3] 橋本三代子氏の方言では、トウキミである。
[4] 当地の昆布入り焼酎の名前。調査者が以前に聞いた覚えがあるので意味を確認した。

5. TD: イーフリコギ、HM: イーフリコキ　「目立ちたがり屋のこと」
「オメダラホントーニイーフリコギダモンナ。フダン、ナンモヤラネクセニ」
（お前は本当に目立ちたがり屋だものな。普段は何もやらないくせに）
6. TD: ハッチャギナル、HM: ハッチャキナル　「夢中になる」
「ハッチャギナッテハシッタケド、ゲッパダモノナ」
（夢中で走ったけれど、ビリだったものな）
7. TD: マガナウ、HM: マカナウ　「出かける前に身なりを整える」
「ヤットマガナワネバ、チコクスド」
（早く着替えなきゃ、遅刻するよ）
8. MM: ベッタラコイ、HM: ペッタラコイ　「平たい」

(3) 語形の異なる語（TD:『椴法華弁』、MM:『メモ』、HM: 橋本三代子氏）
1. TD: カデル、HM: カゼル　「仲間に入れる」
2. TD: マデ、HM: マテイ　「（仕事等が）丁寧な」
3. TD ダハンスル、HM: ダハンコク　「（子供が）駄々をこねる」

(2)の 1～4、6～7 は、島田他(2001: 174)で指摘しているように、「母音間での無声破裂音の有声化」現象である。

(4)　[+consonantal, + explosive, ***-voiced***] ⇨ [+consonantal, +explosive, ***+voiced***]/
(C)V _____ (C)V
e.g. [t] ⇨ [d], [k] ⇨ [g]

渡島地方では、特に、歯茎音の[t]と軟口蓋音の[k]に多くこの現象が観察される。ただし、(4)の規則は、この環境が整えば例外なく働くというものではない。有声化を期待される破裂音が無声のままである場合も観察されるのである。また、7 のイーフリコギ～イーフリコキの場合、語末の軟口蓋音が有声化している。反対に、8 のベッタラコイ～ペッタラコイでは、第 1 音節の無声唇破裂音[p]が[b]に有声化している。これらの有声化現象が特定の語に限定されているのか、あるいはもっと一般的な性質のものなのかを見極めるためには、さらに数多くのデータを集めて分析する必要がある。

(3)の 3 つの異形態に関しても、一見したところ、共通の原則を見出すことはできない。椴法華方言とその他の北海道方言でこの種の語彙のペアを収集していかなければならないだろう。

3. 特有語彙の聞き取り調査とその結果

2010 年 9 月 7 日（火）午前 9:00～11:30 に、椴法華漁港を目の前に眺望する玉村氏宅の応接間で、栄吾氏と初代氏ご夫妻から、(1)の 42 語について、意味と用法を中心に聞き取り調

査を実施した。橋本と寺田が主に聞き役を、塩谷と島田が記録・録音を、それぞれ担当した。この調査で判明した興味深い事実を以下で述べる。

(5) (=(1)-4)　カッツグ：「追いつく」
用法:運動会の徒競走で、初めはビリでも途中がんばって１等になったような時に使う。
用例：「カッツイデ１等になった」

(6) (=(1)-6)　ウズゲル：「甘える」
語形：ウンズゲル
意味：「相手にやってもらう」
用例：「くぎ打ちでこわくなったら相手にウンズケテしまう」

(7) (=(1)-7)　スガ：「氷」
用法：外にできる氷を指す。冷蔵庫でできるものは、「氷（コオリ、コーリ）」と言う。
用例：「池にスガが張った」

(8) (=(1)-13)　カッパドル：「濡らしてしまう」
用法：魚釣りの時や、椅子からすべる時に用いる。

(9) (=(1)-14)　ガヘネ：「スタミナがない」
意味：「力がない」
用例：「親父がガヘネ奴で俵が担げない」

(10) (=(1)-17)　ダンボラウル：「油を売る」
語形：ダンボラコグ

(11) (=(1)-19)　フトズ：「同じ、そっくり」
語形：フトンズ

(12) ((1)-20)　ブンノゴ：「頭」
使わない

(13) (=(1)-21)　ムガツラ：「顔」
意味：「みっともない顔、がみがみした表情」
用例：「あの人のムガツラ」

(14) (=(1)-24)　ヨロタ：「もも」
　語形：ヨロッタ[5]

(15) (=(1)-27)　ゲンダガ：「毛虫」
　用法：ケムシよりゲンダガの方がおっかない印象を与える。

(16) (=(1)-29)　マギリ：「包丁」
　用法：包丁一般を指す。用途によって、デバ、ウスバ、ユギリなどに下位区分される。

(17) (=(1)-31)　マッコ：「お年玉」
　語形：ウマッコ[6]

(18) (=(1)-33)　ジョンジョコ：「肩車」
　語形：ジィンジョコ
　用法：ジィンジョコする

(19) (=(1)-36)　サギリ：「波しぶき」
　意味：普通、波は 5 回来るうち 2 回は大きい。その大きい波のことを言う。
　用例：「浜さ行けばサギリかぶる」

(20) (=(1)-39)　アンパイ：「うそをつく」
　意味：「口が上手だ」
　用法：あまり信用できない人に使う。
　用例：「あの人アンパイこぎだ」（言うことが信用できない）

(21) (=(1)-41)　マールンケ：「小さい人」
　用法：背の小さい人に向かって、馬鹿にしたり、ののしったりする時に用いる。
　用例：「まるますのマールンケ」

(22) (=(1)-42)　ズナコマ：「友だち」
　意味：「仲良くする、仲の良い」

(5) – (22)は、次の 4 つに分類できるだろう。

---

5 『復刻版松前古老百話・白神』p46 では「ヨロッタ：大腿部？」と表記されている。
6 『復刻版松前古老百話・白神』p7 では、マッコで表記され、正月に子供がもらう「ホマチ銭」のことであると説明されている。

(23) a. (1)と意味の違う語彙：ウズゲル(6)、ガヘネ(9)、ムガツラ(13)、アンパイ(20)、ズナコマ(22)

b. (1)と語形の異なる語彙：ウズゲル～ウンズゲル(6)、ダンボラウル～ダンボラコグ(10)、フトズ～フトンズ(11)、ヨロタ～ヨロッタ(14)、マッコ～ウマッコ(17)、ジョンジョコ～ジィンジョコ(18)

c. 用法の詳細：カッツグ(5)、スガ(7)、カッパドル(8)、ゲンダガ(15)、マギリ(16)、サギリ(19)

d. その他：マールンケ(21)

4. いくつかのコメント

(23a)では、ウズゲル、ガヘネ、アンパイ、ズナコマは、『椴法華弁』(TD)と『聞き取り調査』(以後 KT と略記)結果の意味の間に何らかの関連性が見いだせる。相手に何かしてもらう(KT)ことは甘える(TD)ことの現れであるし、力がなければ(KT)スタミナもない(TD)。口が上手で信用できない(KT)人はしばしば嘘をつく(TD)だろうし、仲が良ければ(KT)友だちである(TD)と言えるだろう。どちらか一方の意味がもう一方の意味を含意する関係にある。ムガツラは、『椴法華弁』では一般的な身体部位名称の「顔」であるのに対し、『聞き取り調査』では「みっともない顔」のように特定の顔つきを指している。おそらく、後者の説明の方が正しいのではないか。それは、『メモ』でツラが「顔」を指すと記されていて、これを修飾する形で「ムガ」が付いているからである。[7]

(23b)のウズゲル(TD)～ウンズゲル(KT)、フトズ(TD)～フトンズ(KT)の交替は、一種の鼻音化現象である。渡島地方の方言では、無声破裂音の有声化と同様に生ずる現象であるが、なぜ『椴法華弁』では表記されていないのかわからない。ダンバラウル～ダンバラコグでは、『聞き取り』の～コグがよくない意味の語について動詞を形成する事実が知られている。

(24) a. ダハンコグ：「だだをこねる」

b. イーフリコグ：「よい恰好をする」

c. へーコグ：「屁をする」

d. ホラコグ：「ほらを吹く」[8]

『椴法華弁』が「油を売る」という標準語の動詞～ウルを引き継いでいるのに比べ、『聞き取り調査』の方はより方言度が強いように思われる。

(23c)は、どのような文脈で当該の語彙を用いるのかを明らかにしている。特に、スガに見る同じ指示対象であってもそれができる場所によって呼び方の異なる例や、サギリのように、

---

[7] ムガはムカッパラ（＜ムカバラ）「わけもなく腹立たしい気持ち」（『国語大辞典』p2295）やムカムカスル「感情や考えは急に高まる様を表す」（『国語大辞典』p2296）語頭のムカに由来するのかもしれない。

[8] 橋本三代子氏（個人談話）による。ただし、その発音はすべて～コクである。

海と暮らす人々でないと把握しにくい語彙の存在は、誠に興味深い。従来の方言語彙調査では、ともすると意味と用例にばかり目が行きがちであったが、文脈や使用域に焦点を当てた調査・研究は、もっと広範囲かつ詳細に実施する必要がある。

(23d)のマールンケの初出は『メモ』であった。他の語彙と比較して、語形がかなり異質であったので、この調査では記述者の玉村栄吾氏に確認と説明を要請した。その結果、栄吾氏も初代氏も、背丈の小さい人を揶揄するのに普通に使っていたとの回答を得た。これと類似の語彙がロシア語にあったように思われたので、ロシア語を専門とする匹田剛氏（東京外国語大学）に電話で問い合わせたところ、маленький「小さい、背の低い」と関連があるのではないかとの指摘を受けた。ただこの語彙がなぜ孤立して方言として残っているのか、また、なぜ『椴法華弁』や『白神』に言及されていないのかは、謎である。他にロシア語起源の語彙が存在しないか、また、どの地域で用いられていたかも含めて、解明すべき問題であろう。

5. 結び

2000 年に調査プロジェクトを立ち上げた時、渡島東岸部方言は今世紀の間に消滅してしまうのではないかという悲壮な予感を抱いていた。その後、平成の大合併の波を受け、2004 年 12 月に椴法華村は恵山町、戸井町、南茅部町と共に函館市と合併した。今日、「椴法華」の名称は、市役所の支所、郵便局、小学校、中学校等に冠せられるのみである。函館市に編入されたことは、生活の便利さから見て、地元住民にとっては歓迎すべきことであろう。しかしながらこれに伴って、方言や伝統的な風習、文化は速いテンポで衰え消えていかざるを得ない。方言を使用し、その用法や背景にある風土に根差した知識を開陳できる人は、80 代を超えているのである。当初の予感は、残念ながら、現実のものとなりつつある。

これまでの 9 回に渡る調査を通して、複数の協力者からかなりの量の聞き取りデータを蓄えるに至った。現在、元漁師の男性（故人）の戦前の漁業を中心とした談話を文字化しているが、このような資料に基づいて方言語彙や忘れられた生業、生活様式などについての記録を後世に残していきたい。同時に、証言できる方の協力の下で、収集した資料の裏付け調査を継続していくことが肝要である。「緊急調査」は現在進行の形で、私たちの目の前に提示されているのである。

謝辞

* 本稿の執筆にあたって、聞き取り調査に全面的に協力してくださった玉村栄吾、初代ご夫妻に、心からの感謝を申し上げたい。また、方言語彙のリストに目を通し質問に丁寧に答えて下さった橋本三代子氏、急な問い合わせに快く応じて下さった匹田剛氏にも謝意を表したい。最後に、共に調査に参加し、確認作業に従事してもらった塩谷亨氏と島田武氏にお礼を述べたい。しかし、すべての誤り、不十分な考察結果の責任は、筆者のみに帰せられる。

参考文献

島田武、橋本邦彦、寺田昭夫、塩谷亨. (2001) 「椴法華（とどほっけ）における言語と風習―失われゆく伝統」『室蘭工業大学紀要』第 51 号、173-182.

尚学図書（編）(1979) 『国語大辞典』小学館

椴法華村教育委員会編. (2000) 『椴法華弁』椴法華村教育委員会

類家直人（編）. (2007) 『復刻版松前古老百話・白神』松前古老百話・白神復刻実行委員会

執筆者紹介

氏名：橋本邦彦

所属：室蘭工業大学大学院工学研究科ひと文化系領域

Email：92hashimot@gmail.com